CASBEE®あいち ▌評価結果▐

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き　|使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要

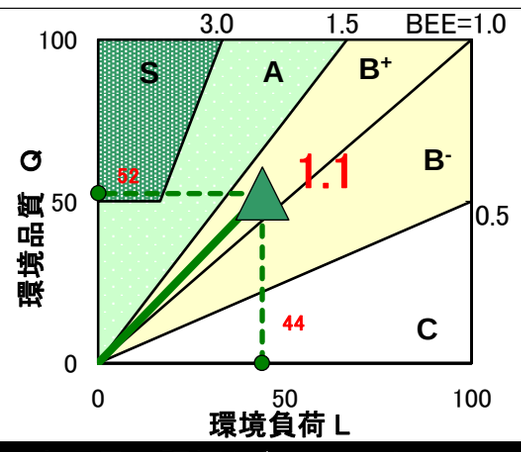
建物名称	(株)大福　東海物流センター	階数	地上2階
建設地	愛知県東海市荒尾町東犬久利2番1ほか28筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	23　人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920　時間/年
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年4月　　予定	評価の実施日	2021年5月21日
敷地面積	8,940 ㎡	作成者	瀬古 好美
建築面積	4,303 ㎡	確認日	2021年5月21日
延床面積	4,477 ㎡	確認者	瀬古 好美

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.1

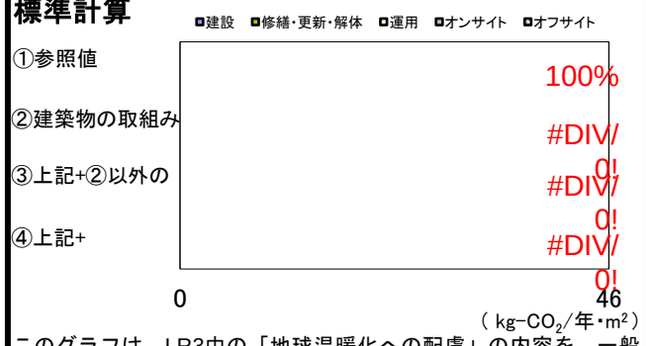
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

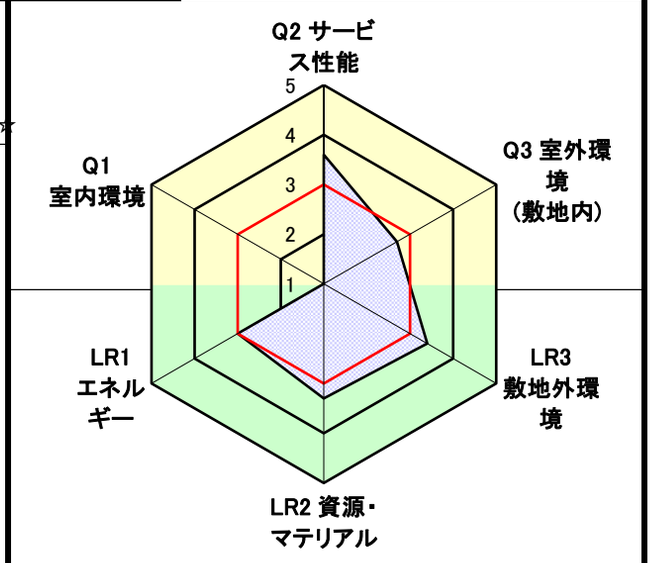
30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

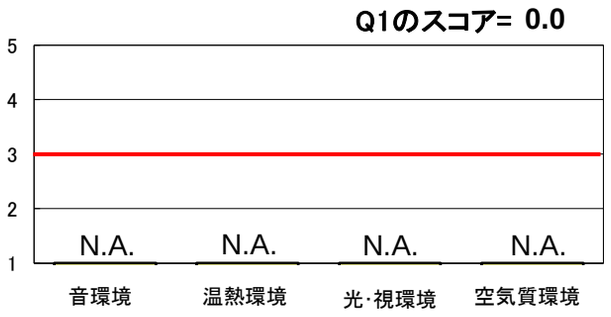
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



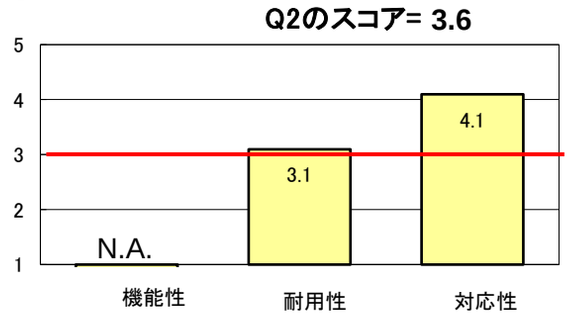
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.0

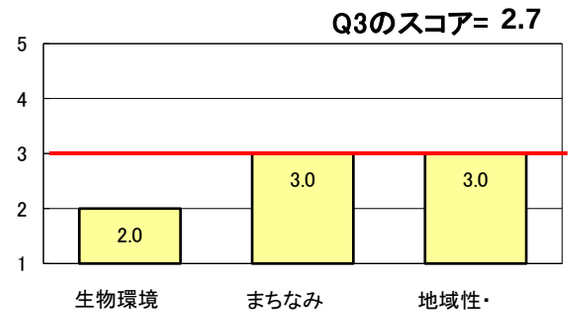
Q1 室内環境



Q2 サービス性能



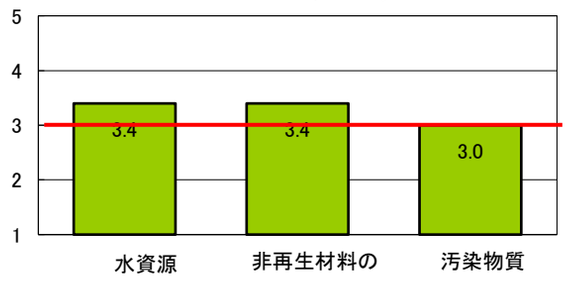
Q3 室外環境（敷地内）



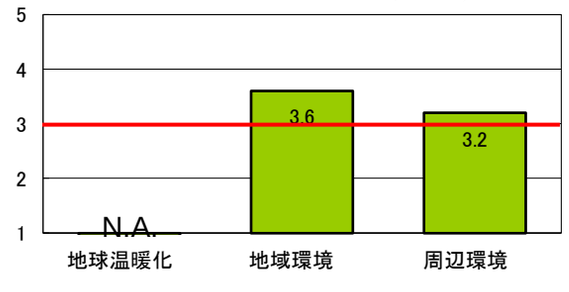
LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.2

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル



LR3 敷地外環境



3 重点項目

①地球温暖化への配慮

N. A

③敷地内の緑化

2. 0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
49.9 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
0.0 %

②資源の有効活用

3. 5

④地域材の活用

1. 0

<外装材に使用した地域性のある材料>
なし
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。
①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積＋低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積＋壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$

CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き
(株)大福　東海物流センター

□欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き
■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q　建築物の環境品質									3.0
Q1　室内環境					-			-	-
1 音環境			-	-	-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-	
1.2 遮音			-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	3.0	-	
1.3 吸音			-	-	-	-	3.0	-	
2 温熱環境			-	-	-	-	-	-	-
2.1 室温制御			-	-	-	-	-	-	
1 室温			3.0	-	-	-	3.0	-	
2 外皮性能			3.0	-	-	-	3.0	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御			3.0	-	-	-	3.0	-	
2.3 空調方式			3.0	-	-	-	3.0	-	
3 光・視環境			-	-	-	-	-	-	-
3.1 昼光利用			-	-	-	-	-	-	
1 昼光率			3.0	-	-	-	3.0	-	
2 方位別開口			-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備			3.0	-	-	-	3.0	-	
3.2 グレア対策			-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御			5.0	-	-	-	3.0	-	
3.3 照度			3.0	-	-	-	3.0	-	
3.4 照明制御			3.0	-	-	-	3.0	-	
4 空気質環境			-	-	-	-	-	-	-
4.1 発生源対策			-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質			3.0	-	-	-	3.0	-	
4.2 換気			-	-	-	-	-	-	
1 換気量			3.0	-	-	-	3.0	-	
2 自然換気性能			3.0	-	-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	3.0	-	
4.3 運用管理			-	-	-	-	-	-	
1 CO_2の監視			3.0	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	
Q2　サービス性能				—	0.43		-	-	3.6
1 機能性			-	-	-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ			-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性			3.0	-	-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性			-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観　（天井高）			3.0	-	-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-	
3 内装計画			3.0	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理			-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性			0.5	3.1	0.52	-	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振	②		0.4	3.0	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	3.7	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.25	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		外壁下地プラスターボード及び鉄骨胴縁現し	-	5.0	0.10	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		硬質塩化ビニル管(給・排水)、配管用炭素鋼管(白)(消火)	-	5.0	0.17	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		消火ポンプ	-	4.0	0.25	-	-	-	
2.4 信頼性			0.1	2.5	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備	②		3.0	3.0	0.25	-	-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	1.0	0.25	-	-	-	
3 電気設備			3.0	3.0	0.25	-	-	-	
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.25	-	-	-	
5 通信・情報設備			3.0	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.4	4.1	0.48	-	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		3.96m	-	5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.104	3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		3,900N/㎡	3.0	4.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.8	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	-	-		-	-	
2 給排水管の更新性		構造材を痛めることなく修繕・更新可能	3.0	4.0	0.23		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.15		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	-	-		-	-	
5 設備機器の更新性		建物機能を維持したまま更新・修繕可能	3.0	4.0	0.31		-	-	
6 バックアップスペースの確保		消火ポンプ所は屋外計画	3.0	4.0	0.31		-	-	
Q3 室外環境（敷地内）				—	0.57		-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-			-	3.2
LR1 エネルギー				—	0.40		-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	-	-		-	-	-
3 設備システムの高効率化		BEI=	3.0	-	-		-	-	-
4 効率的運用			1.0	3.0	1.00	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30		-	-	3.3
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓、擬音装置	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.4	0.63	-	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	ー	-	3.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	再生砕石：土間、舗装、側溝等の路盤	3.0	3.0	0.21		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体＋塗装仕上、鉄骨ボルト接合	3.0	5.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-		-	-	
2 発泡剤（断熱材等）			-	3.0	1.00		-	-	
3 冷媒			3.0	-	-		-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30		-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	①	#DIV/0!	-	-	-		-	-	-
2 地域環境への配慮			0.5	3.6	0.50	-	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	-	5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.6	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.33		-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	-	-		-	-	
3 交通負荷抑制	独自	乗用車、搬出入車両駐車場を確保。車両動線を考慮した計画	-	4.0	0.33		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		廃棄物処理委託	-	4.0	0.33		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.5	3.2	0.50	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動	独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭			-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制			-	1.0	-		-		
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		専門家による検討体制のほか過半を満たしている	-	5.0	0.70		-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策			-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

(株)大福　東海物流センター

■使用評価マニュアル　CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き

■評価ソフト:　CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N.A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.1	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:49.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア＝各配慮項目の評価点

②資源の有効活用

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{重みの総和}}$$

④地域材の活用

重点項目スコア＝評価ポイントの合計＋1

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称　(株)大福　東海物流センター

計画上の配慮事項	
総合	地球環境負荷の低減に取り組んだ。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	ゆとりある空間とし、フレキシビリティ性の向上に配慮した。 耐震性能は建築基準法に定められた耐震性を有するものとした。
Q3 室外環境(敷地内)	建物外部には視線を遮るような樹木を配置しない等、防犯性に配慮した。 空地率60.4%、水平投影面積率25.2%を確保した。
LR1 エネルギー	省エネ計画対象外建物だが、高効率な照明器具を採用し、エネルギーの削減を図った。
LR2 資源・マテリアル	鉄骨現し部の仕上を塗装とする等、部材の再利用可能性の向上に配慮した。
LR3 敷地外環境	駐車場を確保し、交通負荷抑制に配慮した。
その他	特になし。